

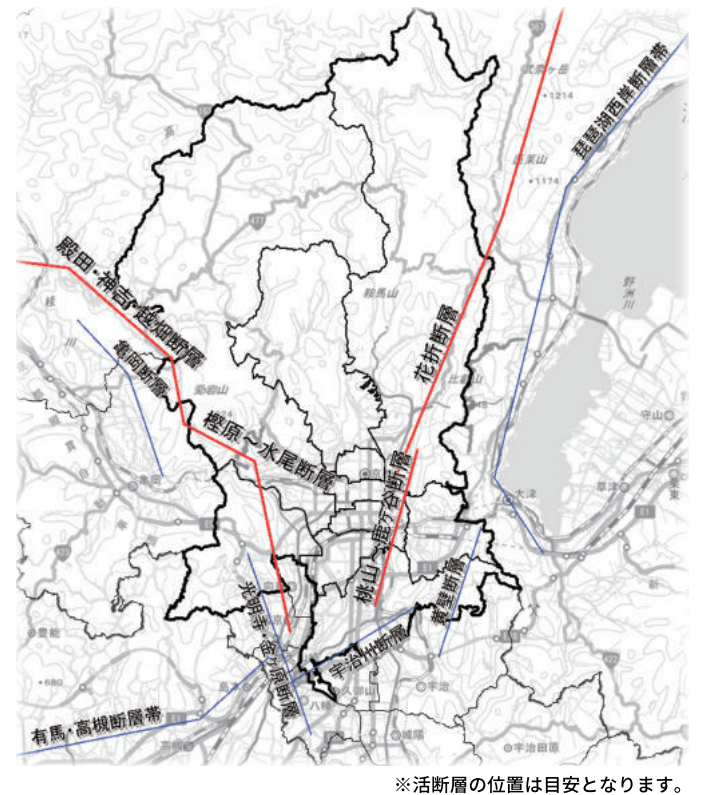
京都市に被害を及ぼす大きな地震

下の地図は、京都市周辺の活断層を示しています。

『京都市第4次地震被害想定』では、京都市内で特に大きな被害が見込まれる4つの「内陸型地震（赤い線で示した活断層を震源とする地震）」と、今後30年以内に高い確率で発生するとされる「南海トラフ地震」を対象として、被害想定を行いました。

下京区では、地図面に記載のとおり「花折断層地震」が、最も大きな被害をもたらすと想定されています。

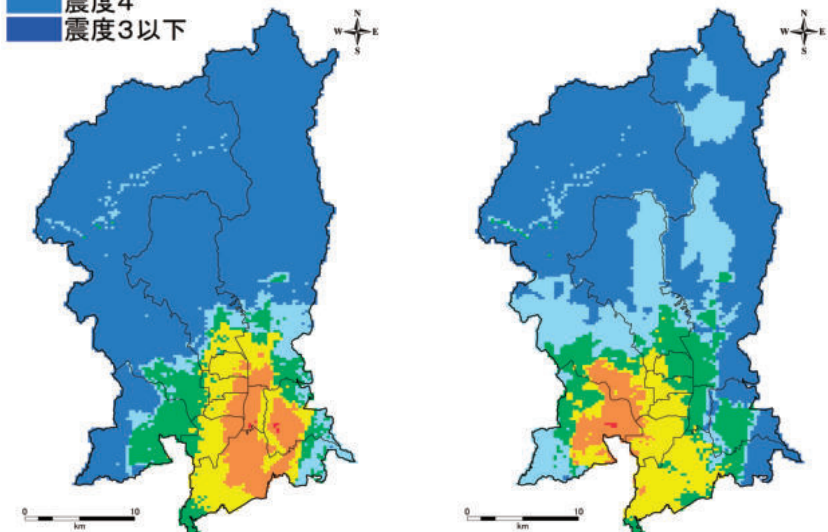
右の地図は、それ以外の地震が発生した場合の京都市内の震度分布を示しています。



(震度分布図)

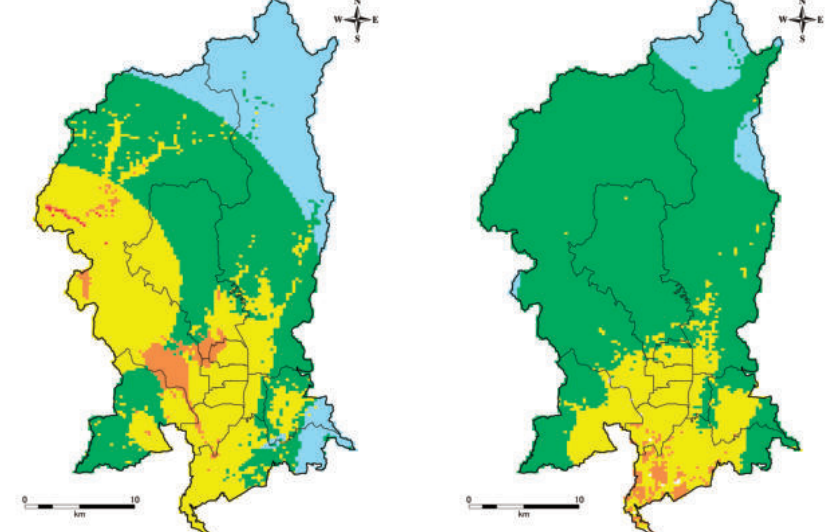
- 震度7
- 震度6強
- 震度6弱
- 震度5強
- 震度5弱
- 震度4
- 震度3以下

『京都市第4次地震被害想定』の詳細はこちらをご覧ください。
<https://www.bousai.city.kyoto.lg.jp/0000000668.html>



桃山〜鹿ヶ谷断層地震

榎原〜水尾断層地震



殿田・神吉・越畑断層地震

南海トラフ地震

京都市第4次地震被害想定

もしもの災害に備えて

事前につけておこう！

我が家の防災行動計画 マイ・タイムライン

あらかじめ作成することで、災害に備えて自分自身が取るべき行動や、日頃からの備えを事前に確認できるスケジュール表です。



区役所、支所などで配布中

防災ポータルサイトでも作成可能！



<https://www.bousai.city.kyoto.lg.jp/mytimeline/>

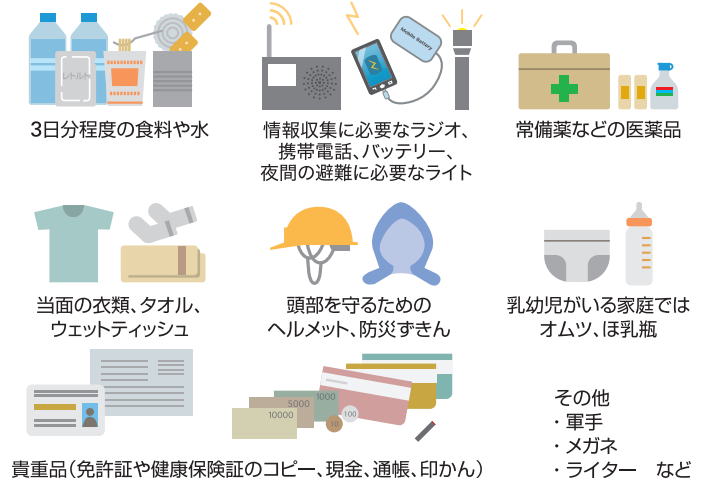
日頃からの備え

非常持出品

いざという時のために、日頃から最小限の非常持出品を用意し、両手が空リリュックサックなどに入れておきましょう。また、準備した非常持出品を地域の防災訓練の際に活用しましょう。

●一次持出品(すぐに必要なもの)

必ず必要となるもので、食料や水を3日分は用意しましょう。



●二次持出品(避難生活に必要なもの)

救援物資が届くまでの間に必要となるもので、余裕があれば用意しましょう。
・非常用食料、水、生活用品など、5日間程度の避難生活に必要なもの

建物の耐震改修について

大地震による被害を最小限に抑え、あなたとあなたの家族の生命と財産を守るため、建物の耐震化を進めましょう。

阪神・淡路大震災では、昭和56年以前に建てられた建物が、特に大きな被害を受けました。

このような建物は、特に注意！！

- 昭和56年以前に建てられた建築物
- 平面形状のバランスが悪い建築物（L字型、コの字型、極端に細長いなど）
- 断面形状のバランスが悪い建築物（1階が柱だけで壁がない、上下階で壁や柱の位置が大きくずれているなど）
- 建築物の管理や補修が不十分で経年変化が著しい建築物

家具の転倒／落下物の防止対策

家具の転倒防止ポイント

- 寝室には、なるべく家具を置かない！
- 家具の上に物を置かない！

●家具転倒防止器具などの設置例

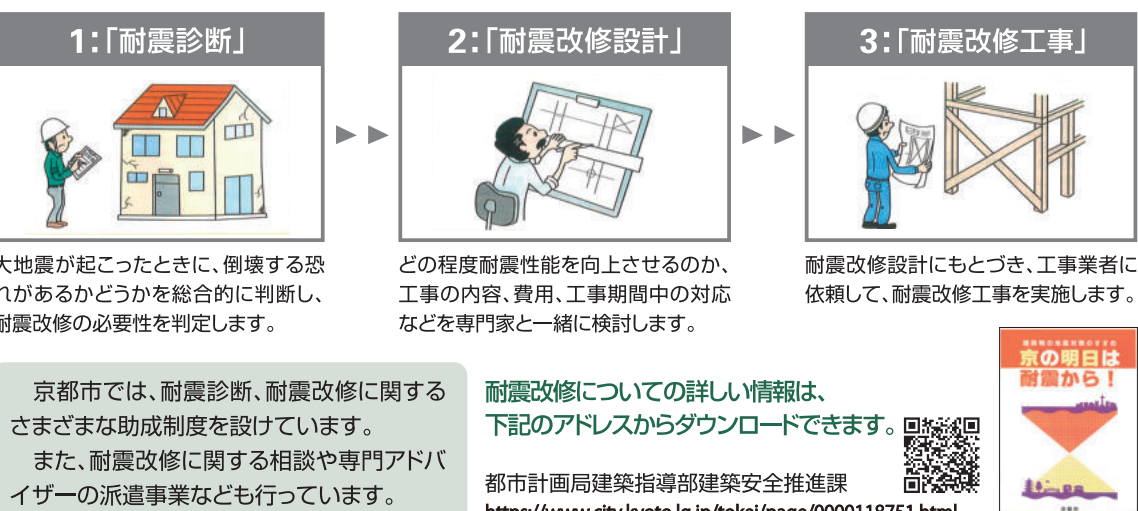
- L字型金具**
●L字型をしており、家具の天板部と壁の中の桎や鴨居などにネジで固定します。
- ベルト・チェーンタイプ**
●チェーンやベルト状の器具で家具の側板部と壁の中の桎や鴨居などをネジで固定します。
- つっぱり棒**
●天井と家具の天板との間につっぱり棒を入れて固定します。
- 家具転倒防止板**
●板状の器具を家具の前面下部に挟み込み、家具を壁にもたれかけさせるようにして転倒を防止します。

阪神・淡路大震災などの大地震による負傷者のけがの原因を調べた結果、40～50%の方が家具の転倒や落下物によりけがをされています。地震によるけがを防止するため、各家庭において家具の転倒や落下物の防止対策を行うことがたいへん重要です。

- 出入口付近に家具を置かない！
- 重い物ほど、たんずや本棚の下に入れる！

- 粘着マット**
●粘着力和弾力のあるマットを、テレビや家具の下に敷き、固定します。
- 開き戸固定器具**
●食器棚等の開き戸に掛け金具やチェーンなどを取り付け、地震の揺れによる扉の開放と食器の飛び出しを防ぎます。
- ガラス飛散防止フィルム**
●窓ガラスや食器棚のガラス面などに貼り付け、割れたガラスが飛び散るのを防ぎます。

※家具転倒防止器具は、確実に固定することが大切です。
ここに紹介した以外の方法で家具を固定する器具も市販されています。



大地震が起こったときに、倒壊する恐れがあるかどうかを総合的に判断し、耐震改修の必要性を判定します。

どの程度耐震性能を向上させるのが、工事の内容、費用、工事期間中の対応などを専門家と一緒に検討します。

耐震改修設計にもとづき、工事業者に依頼して、耐震改修工事を実施します。

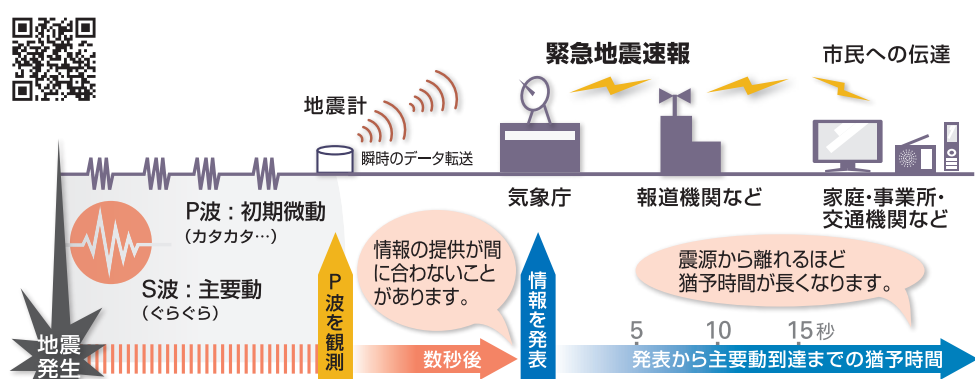
京都市では、耐震診断、耐震改修に関するさまざまな助成制度を設けています。
また、耐震改修に関する相談や専門アドバイザーの派遣事業なども行っています。

耐震改修についての詳しい情報は、下記のアドレスからダウンロードできます。
都市計画局建築指導部建築安全推進課
<https://www.city.kyoto.lg.jp/toket/page/0000118751.html>

緊急地震速報について

緊急地震速報は、地震の発生直後に、震源に近い観測点で検知した初期微動(P波)を解析して、大きな揺れ(S波)が迫っていることを、可能な限り早く知らせる気象庁の情報です。緊急地震速報はテレビやラジオで速報されるほか、列車の制御などにも活用されています。ただし、震源に近い地域では、速報が強い揺れに間に合わないことがあります。

気象庁ホームページ (<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/>) をご覧ください。



- 緊急地震速報を見聞きしたら、地震を感じたときと同様に「あわてず、まず身の安全を！」
- 家庭では、頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に身を避難する。揺れがおさまったら、あわてずに火を始末する。
- 屋外では、ブロック塀に注意し、自動販売機やビルのそばに近づかない。
- 自動車運転中は、ハザードランプを点灯し、急ブレーキを避け、緩やかに速度を落とす。
- 鉄道バスでは、つり革、手すりにつかりつかまる。

防災の知識を深める

防災ポータルサイト

ハザードマップや学区の情報だけでなく、次の情報も閲覧できます。

- マイ・タイムライン
- 備蓄のすすめ
- 帰宅困難者対策
- 指定避難所一覧
- 災害に備えた保険の加入
- ペット防災
- 市内の浸水履歴
- 被災者への支援情報



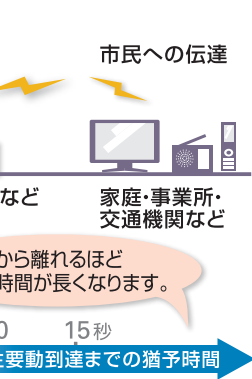
<https://www.bousai.city.kyoto.lg.jp/>



緊急地震速報について

緊急地震速報は、地震の発生直後に、震源に近い観測点で検知した初期微動(P波)を解析して、大きな揺れ(S波)が迫っていることを、可能な限り早く知らせる気象庁の情報です。緊急地震速報はテレビやラジオで速報されるほか、列車の制御などにも活用されています。ただし、震源に近い地域では、速報が強い揺れに間に合わないことがあります。

気象庁ホームページ (<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/>) をご覧ください。



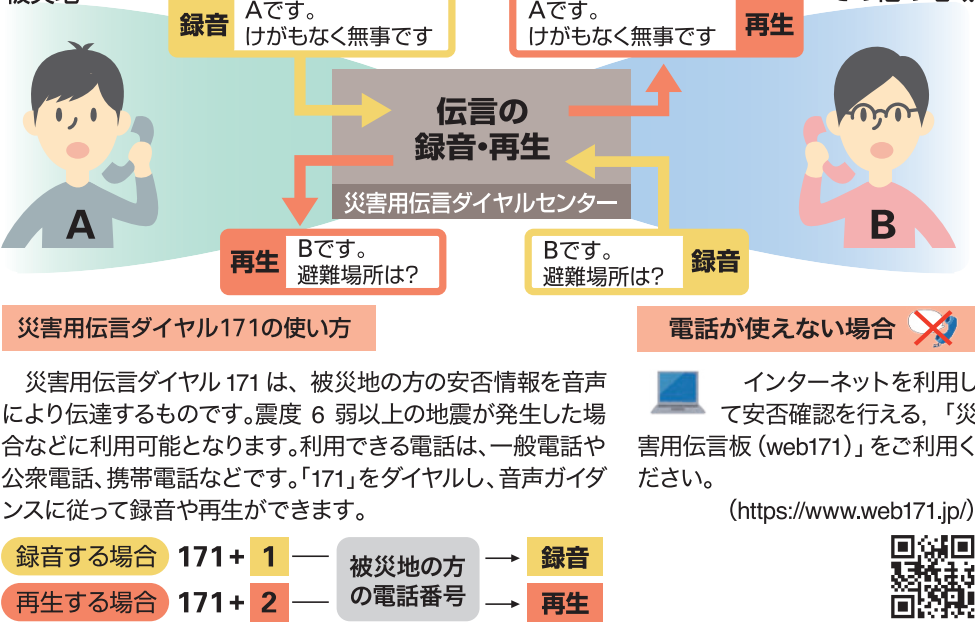
- 緊急地震速報を見聞きしたら、地震を感じたときと同様に「あわてず、まず身の安全を！」
- 家庭では、頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に身を避難する。揺れがおさまったら、あわてずに火を始末する。
- 屋外では、ブロック塀に注意し、自動販売機やビルのそばに近づかない。
- 自動車運転中は、ハザードランプを点灯し、急ブレーキを避け、緩やかに速度を落とす。
- 鉄道バスでは、つり革、手すりにつかりつかまる。

防災に関する相談

防災に関すること	下京区役所 総務・防災担当	075 (371) 7164
防災危機管理室	075 (222) 3210	
消防に関すること	下京消防署	075 (361) 4411
京都市消防局 (代表)	075 (231) 5311	
危険宅地の防災	開発指導課	075 (222) 3558
建築物の防災・耐震診断、耐震改修	建築安全推進課	075 (222) 3613
すまいの耐震相談	京(みやこ)安心すまいセンター	075 (744) 1631
生活相談に関すること	下京区役所 生活福祉課	075 (371) 7215

安否確認の電話は 災害用伝言ダイヤルへ

地震などの災害が起きると、被災地への安否確認の電話が殺到して電話がつながりにくくなることがあります。こんな時は、「災害用伝言ダイヤル171」を利用しましょう。



緊急通報先

事件・事故など 火災・救急など 道路災害 (陥没、冠水、土砂くずれなど)	局番なし 110 局番なし 119
災害廃棄物 緊急くみとり 消毒・防疫	075 (691) 3158 075 (681) 0456 075 (222) 3952 075 (682) 6023 075 (222) 3952 075 (746) 7212
ライフライン	
上下水道局 南部営業所 NTT 西日本 故障問合せ (固定電話から) 関西電力送配電 停電問合せ 大阪ガスネットワーク ガス漏れ通報	075 (605) 2011 局番なし 113 0120 (444) 113 0800 (777) 3081 0120 (8) 19424

記載されている内容は令和6年3月1日現在の情報。

京都市地震ハザードマップ ●発行元／お問い合わせ先:京都市行財政局防災危機管理室 075-222-3210